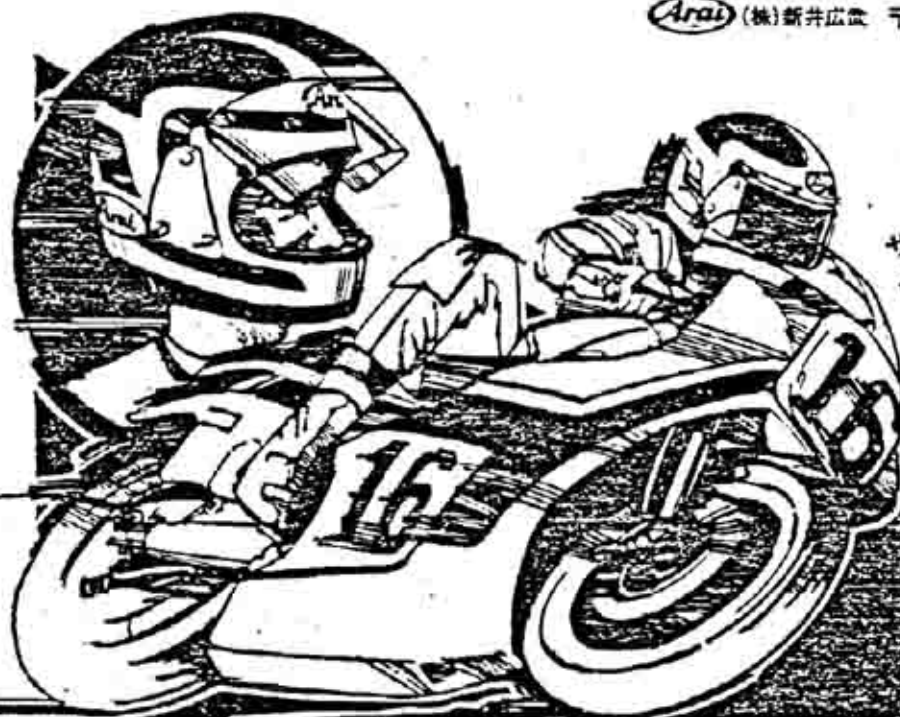


# ARAI NEWS

Aray (株)新井広貴 〒330埼玉県大宮市東町2-12番0486(41)3825-7



サーキットでのフリー走行のときなど、レースを始めて間もないような若い人達の走りを見たり、ピットでの仲間との話し合いを聞いたりして、いつも感じる事があります。少しお説教くさいかも知れませんが、一度お話しさせてください。

よく人気お笑いタレントが、当意即妙の受け応えをしているのをテレビで見ますね。あれは確かに才能もあります。でも、才能だけじゃないんです。常日ごろから面白そうな話のネタを見つけては頭に仕込み、そしてそのネタをうまく生かせるように頭のトレーニングをおこたらないからあれができるのです。

走りにしても同じです。フレディー・スベンサーがあんなに速い走れるのも、走りのすべてが頭に入っているからそれが可能なのです。路面の状態、相手の動き、サスのしずみ込み、腰にかかるG、そんな全てを感覚でとらえ、車がむだなく前にすすむよう反射的に操っていく。これは練習と実践の積み重ねで、次に起こる事を感じ取り、対応していくのに必要なデータを頭と体にたたき込んであるからできるのです。ところが、若い人の中には練習のときからいいところを見せようとして走っている人がいる。ピットへ帰ればタイムばかり気にして、悪いとマシンやタイヤのせいにする。これでは走りのデータは身につきはしません。

お笑いタレント志望が、ネタもないのに舞台に上ってウケないジョークを連発するようなもの。まずはとにかく練習といえるのは走りのデータを頭と体にたたき込むものだという事を自覚しなければだめです。練習のときは、その目的をはっきり自覚して走り込んでください。一つコーナーをせめるにしても、スリルを味わうだけではなく、地道に研究するつもりでいろいろな入り方をしながら、サスの動きまで体で感じられるようになってください。ブレーキングの限界も体で確かめ、なめらかなシフトを無意識にできるまで練習を積んでください。こうした積み重ねなしでは決してフレディーは生まれません。

マシンでは世界を制した日本。だから乗り手でも、日本の若者から世界チャンピオンが次々と生まれてもいいはず。ただ、か有望な若者が出て来てくれないかと、サーキットに足を運ぶ④です。世界のスーパースターを日本から！ そんな夢を見る④です。\*出て来い、ヒーロー！④は応援します。

二三年前「日本の若者を世界へ」という事で続けてきた④レーシング留学制度ですが、83年は残念ながら該当者なしという事でお休みします。しかしうれしい事に、第一回留学生の石川岩夫選手と、第二回留学生の酒井清孝選手が、いよいよ世界GPのロードレースにチャレンジします。④は83年レーシング留学のかわりに二名の卒業生をバックアップさせていたが、事になりました。皆様も応援してください。



カタログご希望の方は、切手70円分同封の上お申しつけください。